



問

東海病院に「BNCT」を設置してはどうか
ハードルはあるが将来性を感じている

新和とうかい 大内 則夫 議員

議員 「いばらき中性子医療研究センター」で研究しているBNCTは日本が世界をリードしている新たな

がん治療装置である。本村で、本格的に治療ができるような体制整備を
してはどうか。

副村長 治療装置の研究も重要と考えるが、装置を動かす等の人材育成も重要だと考える。まずは、東海村発の医療機器・技術、東海村で学んだ優秀な人材が地元はもとより、全国に羽ばたく日が一日も早く訪れるよう、村としても積極的にバックアップしたいと考えている。

問 下水道整備の予定はいつなっているのか

答 今後10年間で整備を終了させたい

議員 平成25年度末の時点で341ヘクタールの下水道認可面積が残っ

ている。早急な整備を求める住民が多くいるが、予定はどうなっているのか。

建設農政部長 少子高齢化による人口減少や今後の財政状況を勘案し、全村を公共下水道で整備する計画から、公共下水道で整備する区域と合併浄化槽で整備する区域に分けて10年くらいかけて進めていく。

問 ハザードマップにある危険個所の避難対策は

答 迅速に避難できるよう防災訓練を実施する

議員 局地的な集中豪雨による土砂災害は今や全国各地で発生してもおかしくない状況にある。早く正確な情報をつかみ伝達する仕組みを構築する必要があるのではないか。スマートフォンアプリを活用した雨量情報収集もあるがどうか。

村民生活部長 村は、避難勧告等の判断・伝達マニュアルを作成しており、避難準備情報・避難勧告・避難指示の発令区分を定めている。

また、毎年、豊岡区や亀下区、竹瓦区、宿区で津波や洪水を想定した防災訓練を実施しており、今後は、川根区や南台区、真崎区でも土砂災害防災訓練を実施したい。
スマートフォンアプリを活用した降雨量とその予測については参考にしたい。



昨年の台風で増水した川根の南新川